

イモも人も際だつ個性 —有色甘しょ・有色馬鈴しょ—

日農化学工業(株) 取締役 椎名 隆次郎

有色甘しょ、有色馬鈴しょにかかわって10年以上の年月が流れる。私が在籍している会社は天然の色素を製造しているメーカーで、色素原料となる有色甘しょ、有色馬鈴しょを探し始めたことが、このいも類関係に足を踏み入れる始めの一步となった。

その後ほぼ同時に有色甘しょと有色馬鈴しょと対面することになるのだが、その時の驚きは今でも忘れられないものがある。「こんな色をしたイモがあるのか」とその個性に驚き、それを紹介してくれた育成者の個性にも驚く。その後も濃い色のイモを求めて、色々ないも類関係者とお会いしたところ、皆さん人間味があり、能力が高く、そして個性が強い方ばかりだった。お店で出された肉じゃがのじゃがいも一つで、品種は何か、生産地はどこか、中心空洞は無いかなどの議論で30分以上話しが続くことから、一般の消費者には理解出来ない世界である。そんな方々との出会いは、私の大きな財産となっている。

そして、個性の強いイモの生産に取り組んでくれる農家さんも同様に人間味があり、能力が高く、個性が強い。作り慣れた品種以外のイモを栽培してみようと挑戦するのだからやはり能力があり、個性も好奇心も強くなくては取り組めないところだろ

う。このように多くの方々の力を集結させて生まれた新系統の、有色イモの掘取り調査には、言いようのない期待感が込められる。フィールドで掘った直後のイモを裁断し、その断面の色素濃度が濃かった瞬間、立ち会ったメンバーからどよめきがあがり、例えようのない達成感とその場の雰囲気覆いつくす。言い過ぎではなく、この場に立ち会えたことへの喜びを感じる瞬間である。

このように色とは、分かりやすくイモの個性を瞬間に消費者に伝えることができるツールの一つでもある。そんなイモの個性を少しでも知ってもらおうと(財)いも類振興会として出展している農林水産祭「実りのフェスティバル」で、有色甘しょ、有色馬鈴しょや新品種及びあまり出回っていない



農林水産祭「実りのフェスティバル」
東京国際展示場・(財)いも類振興会ブース

既存品種等を展示し、2日間で4万人を越す来場者に普及を図っている（写真）。初めて有色甘しょ、有色馬鈴しょを見た消費者の皆様は、流石に「こんなおいもがあるのね」とその珍しさに一様に目を輝かせてくれる。特に好奇心に満ち溢れた子供の目の輝きを見た時は、思わず未来の消費者になってくれることを期待してしまう。私自

身も今後共微力ではあるが、いも類の普及をお手伝いできればと思っている。

最後になりますが、永きに亘りいも類の普及に努めてこられたいも類振興会創立60周年と、1号からの積み重ねで到達されたいも類振興情報100号の発刊を心よりお喜び申し上げるとともに、いも類振興会の今後益々の御発展を心よりお祈り申し上げます。